

令和3年度 自己評価（9月） 中津市立沖代小学校

1 学校の教育目標

自ら学び合い 仲間と共に やり抜く児童の育成

2 育成をめざす資質・能力

- ・自己の課題に気づき、解決のための活動を選び挑戦する力（問題解決力）
- ・他者と対話的に関わりながら、自己や他者を尊重する力（人間関係形成力）

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準			
A	…達成率90～100%	B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%	D	…達成率60%未満

目指す資質・能力	重点目標	達成指標	学	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組			
生きて働く知識・技能の習得	わかるできるを実感する	○「学校の勉強はわかる」と答える児童の割合 90%以上	学 校	○層の学力保障（年間を通した学力づくり）と授業参加ができる授業改善	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組			
		○国語算数の単元テストで達成率80%以上。 (各種学力調査達成率 70%以上)		・ヒントカードやヒントコーナー、キーワードやフラッシュカード等、個別指導の工夫を取り入れたり、ICT等を個別最適化に活用したりする。				A	・「学校の勉強は分かる。」児童 92% ○キーワード等でポイントをつかみ意欲を持って学習を進める事が出来ている。 ○ICTを活用し視覚化を図ったり、児童の考えを交流につなげたりすることは「分かるできる」につながっている。 ○教科担任制（高学年）は、児童の力の向上に効果が見られる。 ◇繰り返し学習のスケジュール化を図り、力の定着に向けて個別指導を更に継続していく。 ◇キーワード、ヒントカードの活用、ICTの具体的活用	
		○自ら進んで家庭学習に取り組む児童の割合 80%以上		つけたい力を明確にした家庭学習の推進				・基礎基本の力（計算力、「書く」力）をつける問題を家庭学習に定期的に取り入れる。 ・自分に合った課題を選択し取り組めるような工夫を行い、家庭学習に取りくませる。	A	・「すすんで家庭学習に取り組んでいる」児童83% 保護者 88% ・「すすんで読書している」児童 84% ○つけたい資質能力を明確にした家庭学習の手引きを基に「宿題＋自学」問題量やめあての設定などで自主的に取り組める宿題にしたことは自主性を育むことにつながっている。 ○全校一斉読書の日の取組は計画通り実施し、家でも読書をする習慣がついた。
		○児童アンケートで「進んで読書をしている」と答える児童 70%以上		主体的に自分の学習・読書を計画できる力の育成				・毎日自主的に取り組む家庭学習ガイドに沿って、励ましの声かけをする。	A	・「毎日自主的に取り組む家庭学習ガイドに沿って、励ましの声かけ」保護者実施83%（目標の80パーセント） ○家庭学習の手引きを保護者に配布し、指定学習・自主学习・読書の趣旨や参考例などから、忙しい中でも家庭が協力してくれている家庭が増えてきている。
未知の状況にも対応できる思考力・	他者と対話的に関わりながら、自己や他者を尊重する	○他者の意見を取り入れ思考を深める児童の割合80%以上	学 校	学年に応じた学び合いの姿の共通理解と自ら学び合う学習の推進	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組			
		○児童アンケートで「挨拶ができた」と答える割合が90%以上		気持のよい挨拶をしようとする態度を育てる				・交流の場で、子ども同士が聞き合ったり、教え合ったりする学び合いを1日1回は行う。	B	・「他者の意見を取り入れ思考を深める」児童85% 教職員57% ○ICT（ロイロノート）を活用し、子どもの意見の交流を図っている。 ◇学び合う場作りを意識して作り、日常化する。 ◇発達段階に合わせた学び合いのスタイルを校内研究を中心に共通理解（めざす子どもの姿：つながる言葉）を図り、学び合う場での児童の力の見取りに活用していく。
				主体的に他者と関わろうとする態度を養う				・あいさつの意義について話し合い、すすんであいさつするよう働きかける。	A	・「挨拶ができた」児童 87% ○児童会の月目当てをうけての各クラスの取組（挨拶じゃんけん、挨拶ライン、チェック表等）は、意識が高まる。 ◇「見える化」「聞こえる化」を提示し挨拶の意義を浸透させていく。
				挨拶プラスワンの取り組みを進める				・登下校の子ども達への「おはよう」「おかえり」の声掛けを実施する	A	○見守り用のたすきを付けて。多くの方が登下校の見守りに参加してくれている。 ◇コロナ禍ではあるが、今後とも引き続き協力をお願いしていきたい。
学びを人生や社会に生かそうとする学	自己や集団の課題に気づき、共にやり抜く力	○「学校が楽しい」「みんなで何かやることは楽しい」と答える児童90%	学 校	安心してすごせる学級づくり（人権学習と日常のつながりを意識した取り組みの推進）	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組			
		○学年や学級の課題に気づき、自分たちで取り組みを決め、解決しようとした」と答える児童の割合が90%以上		課題に気づき、自主的自発的に課題を解決していく取り組みの推進				・定期的人間関係づくりプログラムに取り組む。	A	・「学校が楽しい」児童90%「みんなで何かやることは楽しい」児童92% ○みんなで取り組みについて話し合いを通して考え実行するという「課題解決」の流れが、児童に定着した。 ○安心できる学級づくりは常に心がけている。 ◇人間関係プログラムの推進を図る。（定例化）
		○児童アンケートで「運動が楽しい」と答える割合が85%以上		生活の中で主体的に運動に取り組む場の設定				・学年学級の目標を設定し、課題解決のスパイラルを構築する。目標と振り返りを「見える化」「聞こえる化」する	B	・「学年や学級の課題に気づき、自分たちで取り組みを決め、解決できる」児童84% ○児童会の月目標と結びつけて「あ：相手を見て・い：いつでも・さ：先に・つ：つづけて」と挨拶に特化して取り組めた。 ◇より自発的な行動につながるような取り組みを工夫していく。
				生活の中で主体的に運動に取り組む場の設定				・体育学習の年間指導計画に応じて、遊びながら体力を高めることができる場を体育委員会と協力して設ける。	A	・「運動することが楽しい」に肯定的回答をした児童は89% ○積極的に児童が外に出て運動するようになった。 ○放送委員期の全校への呼びかけも良いアプローチになっている。
働き方改革の	信頼しあいの高め	○「沖代小学校は、困ったとき学年・分掌部等チームで助け合える職場である」と答える教職員の割合が80%以上	学 校	・チームで育てる学年・分掌運営 ・会議の前に短時間で学年会を持つなどより全体の意見を集約できる効率化された分掌会議の実施	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組			
				生活の中での自分の課題に気づき改善しようとする力の育成				・生活リズムやインターネット使用についてルールをつくり定期的に子どもと話し合う。	A	・「毎日のインターネット使用についてルール」保護者 88% ◇新しい情報も加えた保護者への啓発が常に必要。
				地域のよさや課題を伝える				・単元や教材に応じたゲストティーチャーとして活動を行う		○コロナ禍で、学習サポーターを予定通りに招聘することはできなかった。
				働き方改革における学校業務の共通理解とサポート				学校の働き方改革について理解し、ゲストティーチャーやサポーターとして学校支援を行う。		○「沖代小学校は、困ったとき学年・分掌部等チームで助け合える職場」教職員 97% ○チームとして動くことで、課題への共通理解が深まっている。 ◇若手が増えていく中で、学年部運営、学年会議の充実がより重要になってくる。 ◇少人数職種の方との情報共有
							○時間内に各会議を実施できた。 ○教育相談委員会の活用ができ、児童に組織的にサポート体制が組めた。			
							○コロナ禍で、学習サポーターを予定通りに招聘することはできなかった。できる行事ではコロナ対策を含め積極的に協力していただく。			